

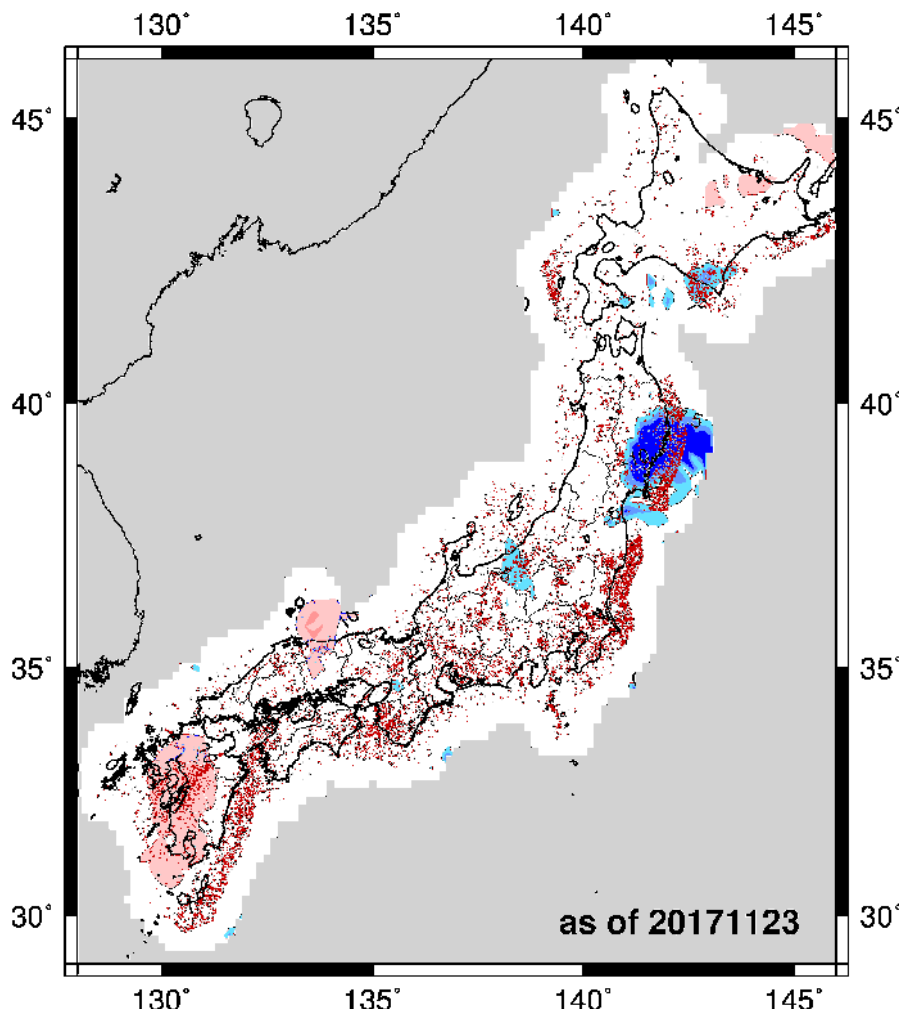
**韓国の地震続報**

11月20日のニュースレターで、韓国・浦項（ポハン）で発生した地震（マグニチュード5.4）により、大学修学能力試験が延期された事をお伝えしましたが、この地震で被害が発生した事が日本や韓国の地震学界で話題となっています。韓国では、なぜこの程度の地震で被害が出たのかという事（一番の原因は熊本地震のように震源の深さが極めて浅かった事が大きく影響しているようです）や、近くに原子力発電所が多数存在する事から、海底の断層調査をもっと行なうべきではという報道もなされています。

日本では、被害が出た事から、実際の震度がどの程度であったかについての解釈が色々なされています。いずれにせよ日本ではこの規模の地震で通常の家屋に被害が出る事はありません（1981年以前の木造家屋ではきちんと耐震補強がされている事や住宅が現在の耐震基準を満たしている事はもちろん必要です）。

**日本列島陸域の地下天気図解析®**

この所、地下天気図に重要な変化が観測されている事から、現在の日本列島陸域の状況についてまとめてみたいと思います。下の地下天気図は11月23日時点の最新の陸域に特化した地下天気図です。

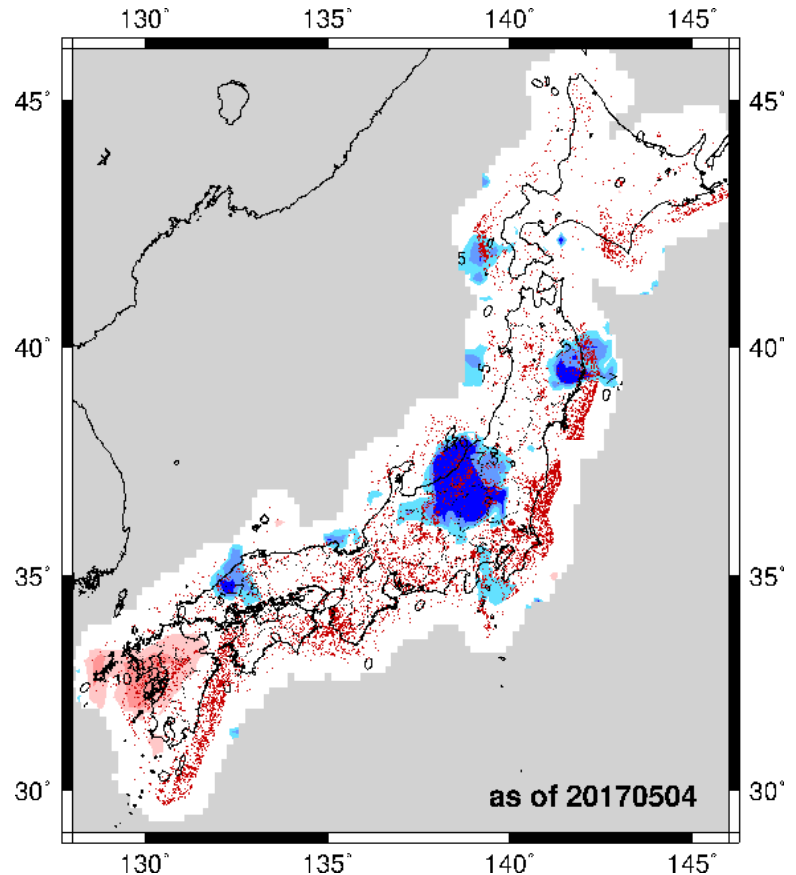




図中の青い部分が地震活動静穏化の異常が現在見られる所です。この青い場所を“低気圧”と呼んでいます。これまでも繰り返し述べていますが、地下天気図では、通常の気象の天気図とは異なり、“低気圧”が過ぎてから(=異常が終了してから)地震が発生する事が多いという経験則があります。また、異常(青い部分)の中心で地震が発生したケースより、異常の縁の部分で地震が発生したケースが多い事も経験的に知られています。

次に示します地下天気図は今年の5月4日時点のものです(再掲)。北信越から関東北部地域にかけて大きな静穏化の異常領域が広がっている事がわかります。現在この異常がほぼ終了したと考えております。またこの5月4日の時点では中国地方西部から瀬戸内海にかけての異常を見る事ができます。この異常もより大きな異常からだんだん領域が狭くなっていき、現在は消失しています。

岩手県を中心とした異常(静穏化)は現在まだ進行中です。



## 陸域の地下天気図から現在言える事

- 1) 北信越から関東北部での地震発生準備は整ったと考えられる(1月13日のニュースレターを参考にしてください)。期間は半年から1年程度か?
- 2) 同様に中国地方西部から瀬戸内海にかけても静穏化が消え、地震発生の可能性が高いと考えられる。期間はやはり半年から1年程度か?
- 3) 岩手県を中心とした東北地方(青森、岩手、宮城、福島沖を含む)における地震発生はまだ先と考えられる。
- 4) 別のデータ(大きな地震と小さな地震の発生比率の解析)から九州北部(特に福岡県)で今後地震発生の可能性が高い(この九州北部(特に福岡県と考えています)についてはデータ解析手法の違いから予想期間はかなり長く数年以内という中期的な予測です)。

とまとめる事ができます。なおいずれの地域も M6.5 から M7 クラスの地震が発生する可能性が存在すると考えています。ただ地震発生予測には 100%はありません。過去のデータでも地下天気図解析による地震発生の確率は 6-7 割程度と考えています。この点に十分ご留意して、防災意識の啓発にご活用下さいませ。